

同期生会などの場で、互いに懐かしい学生時代を語らい、「おまえ、昔とちっとも変わってないね」などというセリフは、これまた嬉しいものだ。

しかしそうではなくて、5年ぶりとか10年ぶりで偶然に知人と出会い「その辺で、コーヒーでも・・」ということで、腰を落ち着け、しばし歓談の時間を持つことがある。

こうやって歓談のひとつときに、相手が言う。「5年ぶりだけど、以前とちっとも変わりませんね」こう言われたら別れてから、じっと自身を考えなければならぬ。というのは現代は、川の流れにたとえれば、急流であり激流の環境だからだ。

ビジネス・モデルの変化も激しいから、現在の書店では、ビジネス・ハウツー本は、ほとんど売れない。売れても第1刷で姿を消す。

この現象も、出版不況に追い打ちをかけている。という具合に、時流の変化が激しいときに、「以前と変わりませんね…」などと言われたら、「ちっとも進化してませんね…」と言われたと解釈し、ドキッとすることが多い。

私の学友に、大学を出ると生命保険会社に入社し、やがて会社を辞めると、みずから保険代理店の道を進んだSくんがいる。

このSくんに久しぶりに会ったとき、感動して思わず彼にかけた言葉は、こうだった。「おまえ変わったなあ・・」学生時代から彼の本質だったのかも知れないが、一生懸命に他人の面倒を見るのである。

たとえばぼくが熊本のホテルにいたら、「用があるから、いまから行くぞ」という電話を隣の福岡からくれた。こうやってわざわざ来てくれた用件は、「母校の高校で講演してくれ」という話なのだ。しかも彼はそのとき、片足を病気で無くしていた。



脳力開発センターの田中典生先生、いつもありがとうございます。田中先生と知り合ったのは十年ほど前のことになりました。私の事務所が京橋にあったころだったと記憶しているもの、うかつなこと何処でお会いしたのかはつきりとした記憶がありません。でも、いつも気になる人として、ふとした時に記憶の底からお名前が飛び出してきます。初めてお会いしたとき「ノウ力開発のノウは「脳」の字なんですよ」と、田中先生のお仕事の説明を受けましたが、私の脳力はかなり低下してしまっただけで、経営者支援や社員教育をしてもらって、時々「RFCMレポート」を読ませてもらいましたよ。と記事に対する感想と先生独自の宇宙観、世界観や人間観などを話してくださるの、私に對する一つの道を見えるように示してくださっているように、電話での会話が終わった後には、不思議なことに力強さと爽快感が残り、何故か図書館へと走って行きたくなってしまうのです。

ありがとうの思い出-22

それは、お話しの中から吹き出すような勢いを感じることがあり、言葉の一つ一つに私には足りない何かを探し求めようという行動刺激が隠れているように、それが、時々田中典生先生を思い出さなくなっているのにも不思議な感じがします。人それぞれに異なる影響の大きさは、解析し評価できる脳力はただ者ではないと、実践したことを懸命に身体に覚えさせてそれを自らに思っている私には、遠い道の程のように思えてなりません。先生からの刺激を受けとめ、感謝の気持ちを忘れず社会のために尽くしたいと思えます。

経営コンサルタント 二見道夫

母校を思い、学友のぼくを遠路訪ねる。我が身は五体不全の状態なのに。

その学友はもうこの世にはいない。しかし彼が残した遺産は、Sビルという建造物に留まらず、人に優しく親切に接する奉仕の精神は家族に引き継がれ、特級の優績代理店として、いまでも保険会社にとっても、顧客にとっても輝いて存在している。

しかし一方、目線を転じてみるとどうか。鉄のカーテンを身の回りに張り巡らすかのようにして、激しく変化する環境の中にあり、インターネットにも背を向け、昔の成功体験に固執し、口は達者でも聞く耳は退化の一途をたどり、まさに「昔とちっとも変わらない人」もいる。

たとえば全国各地に、俗にいうシャッター商店街がある。環境に翻弄された点も否定はできないが、シャッターを降ろすしかなかった経営者自身にも、環境の変化の中で、みずからの変化を拒絶していたのではないか。

たとえば家庭用品を、広く扱う規模の大きな店があった。この経営者は、筆者にこう語った。

わたしは、自分が気に入った物しか仕入れません(売れません)……」

好き嫌いが激しい性格だったせい、「店は顧客のためにこそ存在する」という考え方には程遠く、「店はおれのものだ」という考え方に、がんじがらめに縛られていた人だった。

変えてはならないもの、変えなければならぬもの。峻別が大切だ。

お互いに、「あんた、変わったネ……」という、前向きな言葉をかけられたいものです。

=中古住宅売買における瑕疵担保責任=

不動産コーディネーター 豊田泰幸

中古住宅の売買契約で気になるのは「建物の瑕疵担保責任は免責」ではないでしょうか。建物を売却する際に、購入者が購入後に瑕疵が発見され使用上不具合であるといった場合のトラブルがあります。

契約時に既に分かっていた瑕疵だったのか、契約時までは問題なく使用していたが購入者がしばらく使用した後に発生した瑕疵なのか…などでトラブルになっています。

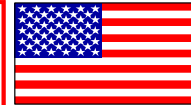
前者の場合、什器設備などが未だ使用できる状態であれば、購入時期や仕様などを「重要事項説明書」によって予め詳細を記述しておくべきであり、そのことを承知して購入した場合は当然のこととして瑕疵のために損害を受けたとしても、売り主はその責任を問われません。

売買契約書において、売り主が個人である場合は「瑕疵担保責任を負わない」とする条項は原則として有効とされていますが、売り主が不動産業者である場合は瑕疵担保責任から免れることはできないと業法で定められています。

建築してから30~40年と建物が老朽化して雨漏りが酷くその原因となる箇所が不明な場合などは、中古住宅の売買とせず、土地の売買として契約し、その老朽化した建物の取り壊し費用を勘案して査定し、購入者を探すようにすることによって、少なくとも、建物に関する瑕疵担保責任は免れることができます。

不動産売却のリスクは、後々のトラブルに巻き込まれないように専門家に相談して回避したいものです。

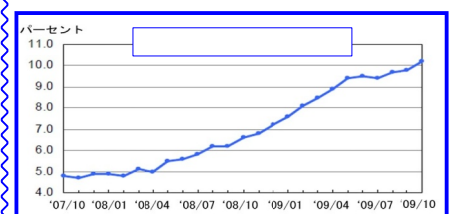
World Now



◆米国の「失業率」10%の実態を検証

さまざまな経済指標から景気が回復期に入ったという見方が強まっている昨今ですが、米国では先月失業率が10%を超えました。

労働統計局発表の資料(http://www.bls.gov/news.release/pdf/empst.pdf)を見ると、サブプライムローン問題が顕在化して以降、失業率は増加の一途をたどり、先月にはとうとう10%を超えてしまったことがわかります。(図1:失業率推移)



同資料のなかに失業率を性別および年代別に集計した一覧があります。

(表1:性別および年代別失業率推移) このなかで目をひくのは、若年層の失業率の高さです。学歴が低く、社会経験の少ない年代になると、男性で3人にひとり、女性で4人にひとりが失業してい

ることになります。また、就業したいと希望する人の割合が少ない女性の失業率が低いため、全体の失業率が低く抑えられているだけで、10%という失業率がかなり深刻であることがうかがえます。

Table 1: Unemployment rate by gender and age group in the US. The table shows rates for various age groups (16-17, 18-19, 20-24, 25-34, 35-44, 45-54, 55+) for both males and females from 2007 to 2010.

また、これだけ失業率が右肩上がりが増加している現状から、失業期間も長期化していることも、問題を深刻にしていると言わざるを得ません。(表2:失業期間の割合推移)

リーマンショックから約1年で、半年以上失業している人の割合が10%以上

■認知症予防・新書■

NPO法人 認知症介入指導協会 理事 清輔喜美男 http://ninchisho-yobo.jp

東北大学大学院医学系研究科辻一郎教授の研究グループが、まとめた調査結果である。

研究グループは、94年に宮城県内の40~79歳の健康な男女、4万3391人に対し健康調査を実施した。7年後の01年末までに死亡した3048人について、「生きがい」が「ない」と回答した人は、「ある」と回答した人に比べて、脳血管疾患で死亡した割合が2.1倍も高く、肺炎も1.8倍高かった。癌は生きがいの有無による影響はなかった。

自殺なども含めて、死亡した人の割合を全体で見ると、「生きがい」がない人は「ある」人に比べて1.5倍高かった。

辻教授は、「良好な感情を持つことは、感染症を防ぐ免疫系に良い効果があるといわれている。定年後も社会活動への参加などで、生きがいを持ち続けることが大切だ」と話している。(読売新聞)

当協会では、06年12月から養成講座を開講していますが、既に認知症の予防方法として、

1. 食事、2. 学習、3. 運動、そして「4. 生きがい」を主張しています。

「生きがい」を啓発するのは、なかなか難しいことですが、生きがいを達成するための一つの「手段」として、食事・学習・運動があると考えて下さい。

手段が「目標」になっては、認知症予防は長続きしません。



も増えています。この状態が続き、今の若年層が親になる次の世代を考えたとしたら、格差がさらに広がることは簡単に想像できます。

Table 1: Unemployment rate by gender and age group in Japan. The table shows rates for various age groups (16-17, 18-19, 20-24, 25-34, 35-44, 45-54, 55+) for both males and females from 2006 to 2010.

◆対岸の火事ではない…日本の失業率

日米の雇用慣行に違いがありますが、総務省では完全失業率は5.2%と発表していますが、政府の「雇用調整助成金」で失業を押さえ込んでいるのが実情であり、本当は数字以上に深刻な状況にあるのではないのでしょうか。

最近の就職率は前年比10%減を示しており、日本の失業率の実態は9%を超え、米国と大差ないという専門家の味方もあるようです。

中小零細企業の経営危機は未だ回復の兆しが見えていない経済状況の中で、やむなく事業の縮小をして従業員の一時休業などの回避策をとっています。

米国と同じく、格差社会になりつつある日本も同じ問題を抱えているのではないのでしょうか？